

# ゲノム解析の発展がもたらした 遺伝性腫瘍のパラダイムシフト



○講師 隈元謙介先生 (香川大学医学部ゲノム医科学・遺伝医学 教授)

○座長 三宅 実先生 (香川大学医学部歯科口腔外科学講座 教授)

## 記

- ◆ 日時：2024年3月23(土) 19:00~20:30
- ◆ 会場：ホテルマリンパレスさぬき  
(高松市福岡町2-3-4) 無料駐車場有
- ◆ 参加費：会員 無料 未入会員 5,000円
- ◆ 定員：45名 会場15名 WEB30名

zoomウェビナー利用

## 【略歴】

1995年 3月福島県立医科大学医学部卒業  
1995年 5月東京厚生年金病院外科 研修医  
1997年 12月愛知県がんセンター研究所第二病理学研究員  
2002年 4月大原総合病院外科 医長  
2004年 1月米国NIH 国立がん研究所(NCI)発がん研究室 Visiting fellow  
2007年 10月福島県立医科大学第二外科 助教  
2009年 10月埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科 講師  
2013年 6月福島県立医科大学器官制御外科 講師  
2015年 4月福島県立医科大学津医療センター小腸・大腸・肛門科 准教授  
2018年 4月香川大学医学部消化器外科学 講師  
2021年 4月香川大学医学部附属病院 手術部 准教授(副部長)  
2021年 6月香川大学医学部附属病院 臨床遺伝ゲノム診療科 科長  
2023年 3月香川大学医学部附属病院 手術部 部長  
2024年 1月香川大学医学部ゲノム医科学・遺伝医学 教授  
【認定医等】 日本外科学会専門医・指導医 / 日本消化器外科学会専門医・指導医 / 日本大腸肛門病学会専門医・指導医 / 臨床遺伝専門医 / 日本遺伝性腫瘍学会専門医・指導医 / 消化器がん外科治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医

## 【講師からのメッセージ】

香川大学医学部ゲノム医科学・遺伝医学講座の教授就任に際し、いち早くこのような講演の機会をいただき、心より感謝申し上げます。本講演では、私のこれまでの研究成果とともに、特に、昨今の日常診療において多くの診療科で遺伝子検査が頻繁に実施され、疾患の診断や手術方法の選択、薬物治療の効果や副作用の予測などに関わっている現状と癌と診断されている中に潜在する遺伝性腫瘍についてご紹介させていただきます。

世界的なヒトゲノム解析プロジェクトが1990年に開始され、13年間で3,000億円かけてヒト一人の遺伝子配列の解読が完了しました。その後、2005年以降に次世代シーケンサーの開発により現在では10万円払えば1日で解析できる時代になりました。世の中に多様性という言葉が広がっていますが、この多様性はヒトゲノムの遺伝子多型にもあてはまります。身近な話では、お酒が強い人、全く飲めない人の違いもアルコール代謝産物の分解酵素の遺伝子配列が生まれながらわずかに1塩基違うだけで決定されています。この1塩基の違いが、生まれながら癌に関連する遺伝子におきたら、若くして癌になりやすい体質、すなわち“遺伝性腫瘍”と診断されます。

遺伝性腫瘍のうち、乳癌や卵巣癌になりやすい遺伝性乳癌卵巣癌が最も多く、保険適用で原因遺伝子の検査ができるためきちんと診断することで本人や血縁者の健康管理に役立ちます。大腸癌になりやすい体質の家族性大腸腺腫症や女性では大腸癌以外に子宮体癌にもなりやすいリンチ症候群も実はよく耳にする「がん家系」の疾患の可能性があります。ゲノム解析技術の発展がこれまで熟知されてこなかった遺伝性腫瘍の診断・治療に大きく寄与しています。

今後、AIを活用して癌だけでなくゲノム解析により様々な疾患の予防医学にも貢献していきたいと考えております。

お申込は香川県保険医協会まで Fax 下さい Fax 087-802-1336

2024年3月23日医科歯科合同セミナー参加申込用紙

WEBでご参加の場合はQRコードからお申込みください

医療機関名	ご氏名
ご住所	
<input type="checkbox"/> 会場で参加 <input type="checkbox"/> WEBで参加	

